

クリナップ®



クリナップ®

キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ

第67期 第2四半期
報告書

2019年4月1日から 2019年9月30日まで

クリナップ®株式会社

〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



70th
Anniversary

証券コード 7955

株主の皆さまへ

『暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革』の取り組みを積極的に押し進めております。

代表取締役会長
井上 強一代表取締役
社長執行役員
竹内 宏

■ 企業理念

家族の笑顔を創ります

■ 行動理念

私たちは、心豊かな食・住文化を創ります

私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます

私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

■ ビジョン

暮らし価値創造企業
「Cleanup」への変革

私たちCleanupは、「キッチンの専門家」として、キッチン、ダイニング、リビング、サニタリー空間に「新たな暮らし価値」を創造・提案することで世界中のお客様に「感動」をお届けし、いつまでも選ばれ続ける企業を目指します。

2018中期経営計画(2018-2020)の概要

■ コミットメントと骨子

創業70周年、そしてその先へ

私たちCleanupは、事業の「変革と創造」に挑戦します。

構造改革

1 中高級市場での競争力強化

2 収益構造の変革

成長戦略

3 第2の事業の柱構築

4 M&Aと業務提携

基盤強化

5 技術力強化

6 ブランドづくり

7 人づくり

中核ブランド「STEDIA」への支持拡大などが売上・利益の拡大に貢献しました。

営業損失を計上した前期業績からのV字回復に向け、順調な推移となっております。当初予想から既に増収および営業黒字の計上を見込んでおりましたが、これを大幅に上回る見込みとなったことから、2019年10月31日には上方修正を公表いたしました。

当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、売上高は前年同期比9.8%増となり、利益面では、営業利益22億24百万円(前年同期は11億59百万円の営業損失)など、すべての段階利益で大幅な黒字転換を果たしました。

増収の主な要因は、特に、システムキッチンの当社中核ブランド「STEDIA(ステディア)」の貢献があげられます。お陰様で発売から1年で5万セットを超える支持を集める中、1セット当たりの単価アップなど高付加価値ブランドとしての地位確立

も進んでまいりました。また、消費税増税前の駆け込み需要が見られたことも、増収の一因となりました。

また、大幅な営業増益となった要因としては、売上高の増加に加え、継続的な原価低減の取り組みにより原価率が低下したこと、販管費の削減に努めたことなどが奏功しました。

なお、通期の業績予想については、当第2四半期連結累計期間の業績を受けて、当初予想から上方修正いたしました。その修正幅は当第2四半期連結累計期間の修正幅に比べると軽微なものとしております。その背景には、回復基調であった持家の新設住宅着工戸数が足踏みを見せていること、消費税増税の駆け込み需要の反動減が予想されることなどの事業環境があります。先行きの不透明感が増す状況ではありますが、全社をあげて売上拡大と利益確保に努めてまいります。

創業70周年への感謝の気持ちを、新たな「変革と創造」への挑戦につなげてまいります。

当社は現在、2018年度を初年度とする「2018中期経営計画」を押し進める中、ビジョンとして『暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革』を掲げ、事業の「変革と創造」に挑戦しております。また、当社は2019年10月に「創業70周年」を迎えました。この大きな節目を“新たな成長と発展へのスタートの年”とするため、最も大きな「変革と創造」への挑戦とも言うべき、“主力商品の刷新”を図りました。まず、前期において、中核ブランド「STEDIA」をはじめとした3グレードすべてを刷新し、システムキッチンの新たなブランド体系の整備を完了、これを受けて当期より積極的な売上・シェアの拡大に努めております。

また、お客様との大切な接点であるショールームの魅力アップについても、引き続き積極的な取り組みを押し進めております。当上期は、中でも、大都市圏に展開しているコンセプト

ショールーム「クリナップ・キッチンタウン」の4拠点目を横浜にオープンさせることができました(2019年6月)。

販売促進活動においても、機会を捉えた施策を積極的に展開しております。たとえば、創業70周年を機会とした「70周年感謝キャンペーン」、女優の松たか子さんを起用した「STEDIA」TVCMの展開、消費税引上げ後の政府支援策「次世代住宅ポイント制度」活用を促す専用ウェブサイトの立上げなど、多彩な活動を行っております。

お客様に愛され支えられ続けた70年を基礎に、新たな70年の歩みへとつなげていくために、私たちはこれからも挑戦し続けます。

株主の皆さまには、引き続きクリナップの経営にご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

特集: おかげさまで創業70周年

創業70周年、そしてその先へ 私たちは、これからも「変革と創造」に挑戦しつづけます。

私たちクリナップは、2019年10月に「創業70周年」を迎えました。これもひとえに、皆さまのあたたかいご支援の賜物であり、これまでの多くの出会いに深い感謝を申し上げます。

これまで私たちは「キッチンの専門家」として、暮らしの空間に生まれる食や住の明るい生活文化を創造し続け、キッチンをとりにくく環境に進化をもたらしてきました。

そして、創業70周年という大きな節目を“新たな成長と発展へのスタートの年”とするため、主力商品であるシステムキッチンの刷新を積極的に図ってまいりました。2018年2月に高級グレード

のシステムキッチン「CENTRO(セントロ)」を発売。登場以来35年、ロングセラーとして愛され続けてきたシステムキッチン「クリンレディ」が、2018年9月に「STEDIA」として生まれ変わりました。さらに2019年2月には「ラクエラ」のリニューアルを経て、3グレードすべての商品ブランドの刷新とモデルチェンジを完了しました。

これからも私たちクリナップは、キッチンを通じた楽しいふれあいの場を創造し続け、時代や社会が求める一人ひとりのライフスタイルに合った商品やサービスをお届けしてまいります。

創業70周年シンボルマークについて

このシンボルマークは、当社の社章と70周年を意味する“70th Anniversary”の文字を組み合わせ、すべてのお客様とのコミュニケーションのシンボルとして制定しました。この社章は、クリナップの高品質で安心を追求したモノづくりの姿勢を表す正方形と、その枠から大きく飛び出そうとする「C」の文字で構成され、仕事に対する情熱、喜びを深みのある赤色とともに表現しています。また、デザインモチーフである「C」は、クリナップ(Cleanup)を表し、また、**Change(変革)・Challenge(挑戦)・Creation(創造)**の気持ちが込められています。


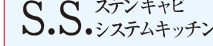


70周年特設Webサイト

<https://cleanup.jp/company/70th/>



70th Anniversary

2019年(令和元年)
創業70周年

<p>1949</p> <ul style="list-style-type: none"> 1949年(昭和24年) 座卓製造会社としてスタート 井上登個人経営の座卓製造販売開始 	<p>1960</p> <ul style="list-style-type: none"> 1960年(昭和35年) ステンレス流し台の製造販売開始 商号を井上工業株式会社へ改称 1961年(昭和36年) 流し台のブランドを「クリナップ」とする 	<p>1970</p> <ul style="list-style-type: none"> 1973年(昭和48年) 日本初のシステムキッチンを開発 後のブランドロゴの元となる商標態様決定 1975年(昭和50年) ステンキャビ流し台誕生 	<p>1980</p> <ul style="list-style-type: none"> 1983年(昭和58年) 社名を「クリナップ株式会社」へ変更 業界初の簡易施工型システムキッチン「クリンレディ」誕生 1984年(昭和59年) ステンキャビシステムキッチン第1号「真珠」発売 1986年(昭和61年) 全工場に「新生産方式CPS(クリナップ・プロダクション・システム)」を導入 	<p>1990</p> <ul style="list-style-type: none"> 1991年(平成3年) 東証一部上場企業として新たなスタート 1998年(平成10年) 業界初! オールスライド収納の「S.S.」誕生 1999年(平成11年) 業界初! フロアコンテナ搭載の「クリンレディ」誕生  	<p>2000</p> <ul style="list-style-type: none"> 2008年(平成20年) 第二の創業スタート 新理念体系制定 新企業理念「家族の笑顔を作ります」 新ブランドステートメント「キッチンから、笑顔をつくらう」 2009年(平成21年) 創業60周年第二の創業として本格スタート 2010年(平成22年) 新コーポレートロゴ制定 	<p>2010</p> <ul style="list-style-type: none"> 2011年(平成23年) 東日本大震災からの復興 クリンレディをステンレスキャビネット化 2012年(平成24年) キッチンタウン・大阪誕生 2014年(平成26年) 「ミラノサローネ」に初出展 2015年(平成27年) キッチンタウン・東京誕生 2016年(平成28年) キッチンタウン・名古屋誕生 2018年(平成30年) 新商品「CENTRO」[STEDIA]誕生 	<p>2019</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年(令和元年) キッチンタウン・横浜誕生 <div data-bbox="2615 824 2948 1126" style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>3グレードすべてを刷新</p> <p>Grade I 高級モデル</p> <p>CENTRO</p> <p>Grade II 中級モデル</p> <p>STEDIA ステディア</p> <p>Grade III 普及モデル</p> <p>rakuera ラクエラ</p> </div>
--	--	---	---	---	---	---	--



ケヤキ材の座卓 (1949年)



米びつ付き「CSM型」流し台 (1961年)



ステンキャビ流し台「さくらDX」 (1975年)



システムキッチン「クリンレディ」 (1983年)



ステンキャビシステムキッチン「真珠」 (1984年)



ステンキャビシステムキッチン「S.S.」 (1998年)



フロアコンテナ搭載「クリンレディ」 (1999年)



ステンレスキャビネットキッチン「クリンレディ」 (2011年)



ステンレスシステムキッチン「CENTRO(セントロ)」 (2018年)



ステンレスキャビネットキッチン「STEDIA(ステディア)」 (2018年)

主なトピックス

商品関連

STEDIA

おかげさまで誕生から1年で「STEDIA」の 販売台数が5万セットを突破

登場以来35年ロングセラーとして愛され続けてきたシステムキッチン「クリナップレディ」を、2018年9月に、システムキッチン新ブランド「STEDIA」として生まれ変わらせ、この度発売から1年で販売台数が5万セットを突破しました。

CMには女優の松たか子さんを起用し、「ねえ、知ってた?」と松たか子さんが笑顔で問いかけるCM第1弾を放映してまいりました。おかげさまで好評をいただき、「STEDIA」の認知向上につながりました。また、「リフォーム産業新聞」主催の「リフォーム大賞2019」においては、STEDIAが中級価格帯部門で1位を獲得しています。

さらなる認知度向上と人気の機能を訴求するべく、新TVCM第2弾を2019年5月16日より放映開始しました。今回も、キッチン内部の見えないところまでステンレスでできている「ステンレスキャビネット」と、お湯でファンフィルターを丸洗いできる「洗エールレンジフード」の魅力について、ユーモラスな演出とともに松たか子さんが紹介しています。



女優 松たか子さん

STEDIA ステディア



リフォーム産業新聞

リフォーム営業マン・プランナーが選ぶ設備建材
リフォーム大賞2019

中級価格帯部門1位

CSR関連

クリナップの
ESG

ESG(環境、社会、ガバナンス)の観点から、持続可能な社会への取り組みを紹介 「サステナビリティレポート2019」をWeb公開

クリナップは、事業活動にともなうさまざまな社会的課題解決への取り組みを進めています。また、活動内容について2005年より「環境報告書」を毎年発行し、記載内容の充実を図ってきました。そして2017年には社会的な取り組みを開示するため「社会・環境報告書」と名称を変更し、今年度は一層充実した報告書「サステナビリティレポート2019」として発行しました。



サステナビリティレポート2019

Home > クリナップについて > CSR活動 > CSR活動への取り組み

https://cleanup.jp/life_cycle/

ショールーム施策

コンセプト
ショールーム

クリナップ・キッチンタウン・横浜 [みなとみらい/横浜メディアタワー2階] 全国で4か所目のコンセプトショールーム誕生

KITCHEN TOWN YOKOHAMA

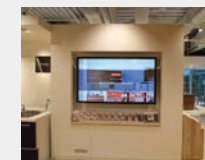
横浜ショールームと横須賀ショールームを統合し、新たに都市型のコンセプトショールーム「クリナップ・キッチンタウン・横浜」が2019年6月28日にオープンしました。豊かなライフスタイルを体感できる“暮らし方の価値提案ショールーム”として、生活者の多様化する暮らしのニーズにお応えしてまいります。首都圏でのキッチンタウンの開設は、2015年の東京(新宿)に続き2か所目となります。

キッチンタウン・横浜の特長

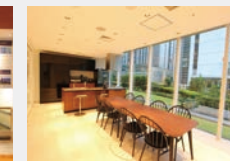
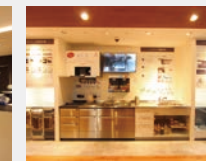
- 1 動線に沿って館内をめぐることで、クリナップキッチンの特長をご覧いただき、自分好みのインテリアテイストを発見できる「ディスプレイウォーク」
- 2 9つの質問に答えることで、好みに合ったインテリアテイストを発見でき、キッチンのカラーコーディネートができるインテリアシミュレーションシステム「My Kitchen Coordination」
- 3 キッチン空間のカラーとテイストを具体的に表現した12セットの「空間提案コーナー」
- 4 最新キッチンの体験や、イベントを開催できる「キッチンスタジオ」

デザインコンセプト

Natural Fusion ~横浜の自然との調和~



日本を代表する
“みなと街・横浜”の
イメージを再現するなど、
みどころがいっぱい。



KITCHEN TOWN OSAKA

(2012年7月オープン)

KITCHEN TOWN TOKYO

(2015年10月オープン)

KITCHEN TOWN NAGOYA

(2016年10月オープン)

KITCHEN TOWN YOKOHAMA

(2019年6月オープン)

スポーツ
振興

皆川博恵選手が「世界選手権」で銀メダルを獲得 東京五輪代表に内定

東京五輪の第1次予選である「2019年レスリング世界選手権」が、9月14日から22日にかけてカザフスタン・ヌルスルタンにて行われました。本大会にクリナップが運営するレスリング部の皆川博恵選手(女子76kg級)が出場し、見事銀メダルを獲得し、東京五輪代表に内定しました。

レスリング部 皆川博恵選手
(女子76kg級)

大会後の皆川選手のコメント
「これまでのレスリング人生、いろいろあったけれど、こうやってオリンピック内定を得ることができた。苦しいことにも耐えてきたので、よかったなと思います。」



連結ハイライト情報／連結部門別情報

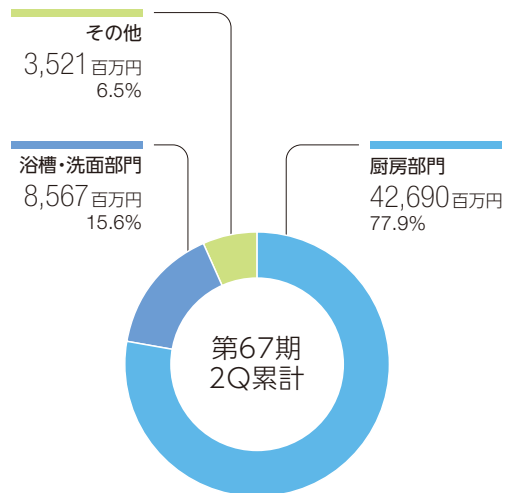
■ 連結財務ハイライト

(百万円)

	第66期2Q累計 2019年3月期2Q累計	第66期 2019年3月期	第67期2Q累計 2020年3月期2Q累計
売上高	49,882	104,486	54,778
営業利益又は損失(△)	△ 1,159	△ 465	2,224
経常利益又は損失(△)	△ 1,095	△ 376	2,256
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△ 1,286	△ 704	1,572
総資産	82,107	80,408	83,941
純資産	50,846	50,824	51,892

■ 部門別売上高(連結)

(百万円)



	第66期2Q累計 2019年3月期2Q累計	第66期 2019年3月期	第67期2Q累計 2020年3月期2Q累計
厨房部門	38,246	81,471	42,690
浴槽・洗面部門	8,400	16,280	8,567
その他	3,235	6,733	3,521
合計	49,882	104,486	54,778

厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「CENTRO(セントロ)」、中・高級品クラスの「STEDIA(ステディア)」、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されています。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されています。

第67期第2四半期連結累計期間の営業概況

市場環境

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策によって企業収益と雇用環境の緩やかな回復は継続した一方、米中貿易摩擦の深刻化や金融資本市場の変動などの影響が懸念されております。

住宅設備機器業界におきましては、消費税増税前の駆け込み需要が見られたものの、回復基調だった持家の新設住宅着工戸数は足踏みを見せ、先行きの不透明感が増しております。

業績・成果

このような中、当社グループ(当社及び連結子会社をいう。以下同じ。)は、2018年9月に新発売したシステムキッチン「STEDIA(ステディア)」や、2019年2月にリニューアルしたシステムキッチン「ラクエラ」など、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、2019年6月にオープンいたしました「クリナップ・キッチンタウン・横浜」をはじめとした全国102か所のショールームにてイベントを開催し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店等の流通パートナーとの連携も深めながら、需要の

拡大、獲得に努めてまいりました。

生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動(*)を推進し、原価低減に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比9.8%増の547億78百万円となりました。利益面では営業利益22億24百万円(前年同期は11億59百万円の営業損失)、経常利益22億56百万円(同10億95百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益15億72百万円(同12億86百万円の純損失)となりました。

*VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第67期第2四半期連結累計期間の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S.S./CENTRO(セントロ)」は数量、金額とも増、「クリンレディ/STEDIA(ステディア)」は数量、金額とも増、「ラクエラ」は数量、金額とも増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比11.6%増の426億90百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも増、「ユアシス」は数量、金額とも減、洗面化粧台においては数量、金額とも増となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比2.0%増の85億67百万円となりました。

連結財務諸表

※第66期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しており、第65期については遡及適用後の数値を記載しております。

■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比40億61百万円増加し、518億94百万円となりました。これは電子記録債権が7億95百万円減少した一方、現金及び預金が23億10百万円、受取手形及び売掛金が13億73百万円、商品及び製品が10億77百万円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比5億27百万円減少し、320億46百万円となりました。これは有形固定資産が2億11百万円減少したこと等によります。

資産合計 総資産は前期末比35億33百万円増加し、839億41百万円となりました。

	第66期2Q 2018年9月30日現在	第67期2Q 2019年9月30日現在	第66期 2019年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	48,244	51,894	47,833
現金及び預金	17,478	18,992	16,682
受取手形及び売掛金	13,839	15,951	14,577
電子記録債権	11,428	11,514	12,309
その他	5,497	5,437	4,264
固定資産	33,863	32,046	32,574
有形固定資産	22,202	21,278	21,489
建物及び構築物	8,375	8,146	8,171
その他	13,827	13,131	13,318
無形固定資産	2,768	2,684	2,810
投資その他の資産	8,891	8,084	8,274
投資有価証券	5,814	5,098	5,151
その他	3,130	3,117	3,288
貸倒引当金	△ 53	△ 131	△ 166
資産合計	82,107	83,941	80,408

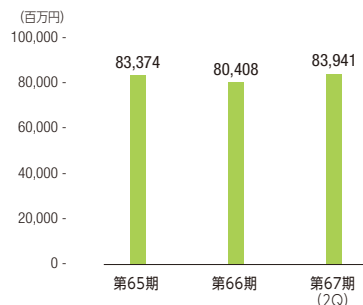
	第66期2Q 2018年9月30日現在	第67期2Q 2019年9月30日現在	第66期 2019年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	24,215	26,291	22,695
買掛金	6,012	7,028	6,020
電子記録債務	7,377	7,096	6,245
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	3,049	3,998	2,937
その他	7,775	8,168	7,490
固定負債	7,045	5,757	6,887
長期借入金	1,726	1,532	2,379
退職給付に係る負債	738	117	318
役員退職慰労引当金	416	416	416
その他	4,163	3,691	3,773
負債合計	31,260	32,048	29,583
(純資産の部)			
株主資本	48,555	49,975	48,772
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	23,620	25,037	23,833
自己株式	△ 683	△ 680	△ 680
その他の包括利益累計額	2,290	1,916	2,052
その他有価証券評価差額金	1,905	1,477	1,521
為替換算調整勘定	28	△ 17	4
退職給付に係る調整累計額	356	456	525
純資産合計	50,846	51,892	50,824
負債純資産合計	82,107	83,941	80,408

流動負債 流動負債は前期末比35億95百万円増加し、262億91百万円となりました。これは主に、買掛金が10億7百万円、短期借入金が10億60百万円、電子記録債務が8億50百万円増加したこと等によります。

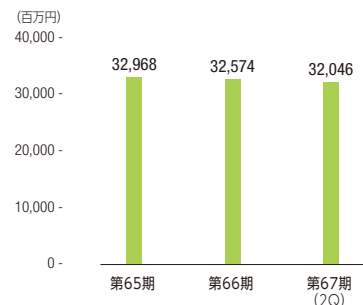
固定負債 固定負債は前期末比11億30百万円減少し、57億57百万円となりました。これは主に長期借入金が8億47百万円減少したことによります。

純資産合計 純資産合計は前期末比10億68百万円増加し、518億92百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益15億72百万円、配当金の支払い3億68百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の63.2%から61.8%になりました。

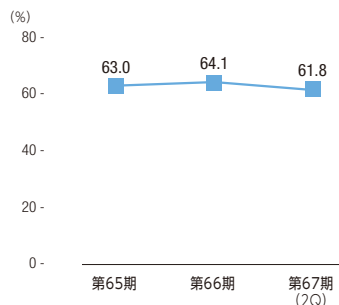
■ 資産合計



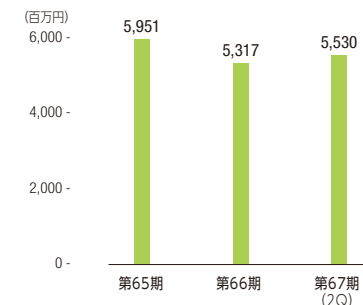
■ 固定資産



■ 固定比率

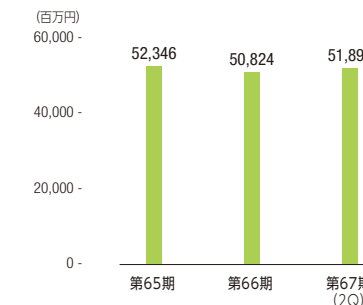


■ 有利子負債

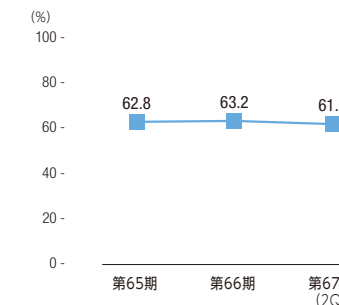


※有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計。

■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表



売上高 付加価値の高い商品の開発・供給、ショールームを起点とした価値提供強化と販売活動などに努めた結果、厨房部門、浴槽・洗面部門ともに数量、金額が増となり、売上高は前年同期比9.8%増の547億78百万円となりました。

売上原価 VE活動の推進など、原価低減に努めた結果、売上原価率が前年同期比2.2ポイント低下し64.7%となりました。

販管費 新商品の開発や販売体制の強化、拡販活動等を積極的に行った一方で、経費節減や生産性の向上等に努めた結果、販管費は前年同期比5億74百万円減少しました。また、販管費率は同4.2ポイント低下し31.2%となりました。

営業利益 増収に加え、売上原価率、販管費率の低下により、営業利益は22億24百万円(前年同期は11億59百万円の営業損失)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益 親会社株主に帰属する四半期純利益は15億72百万円(同12億86百万円の純損失)となりました。

■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

	第66期2Q累計 2018年4月1日～ 2018年9月30日	第67期2Q累計 2019年4月1日～ 2019年9月30日	第66期 2018年4月1日～ 2019年3月31日
(連結損益計算書)			
売上高	49,882	54,778	104,486
売上原価	33,376	35,462	69,943
売上総利益	16,506	19,315	34,543
販売費及び一般管理費	17,666	17,091	35,008
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,159	2,224	△ 465
営業外収益	305	282	594
営業外費用	240	250	506
経常利益又は経常損失(△)	△ 1,095	2,256	△ 376
特別利益	0	0	44
特別損失	90	108	331
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期(当期)純損失(△)	△ 1,185	2,148	△ 663
法人税等	101	576	40
四半期純利益又は四半期(当期)純損失(△)	△ 1,286	1,572	△ 704
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△)	△ 1,286	1,572	△ 704
(連結包括利益計算書)			
四半期純利益又は四半期(当期)純損失(△)	△ 1,286	1,572	△ 704
その他の包括利益	155	△ 135	△ 83
四半期包括利益(包括利益)	△ 1,131	1,436	△ 787

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

	第66期2Q累計 2018年4月1日～ 2018年9月30日	第67期2Q累計 2019年4月1日～ 2019年9月30日	第66期 2018年4月1日～ 2019年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,079	3,762	1,131
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,636	△ 1,192	△ 2,548
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,648	△ 240	△ 1,562
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 23	△ 18	△ 44
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,228	2,310	△ 3,024
現金及び現金同等物の期首残高	20,206	17,182	20,206
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	17,978	19,492	17,182

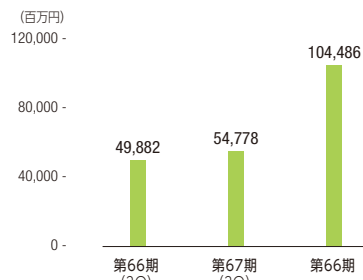
営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は37億62百万円(前年同期比248.5%増)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が21億48百万円、減価償却費が16億10百万円、仕入債務の増加18億56百万円があった一方、たな卸資産の増加11億97百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は11億92百万円(前年同期比27.1%減)となりました。これは生産設備の改修、ショールーム移転・改装等により有形固定資産の取得による支出が8億63百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が3億8百万円あったこと等によるものです。

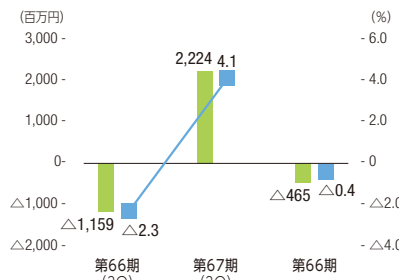
財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は2億40百万円(前年同期比85.4%減)となりました。これは長期借入金の返済による支出が17億86百万円、配当金の支払いが3億68百万円あった一方、短期借入金の純増が20億円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の四半期末残高
現金及び現金同等物の四半期末残高は前期末比23億10百万円増加し、194億92百万円となりました。

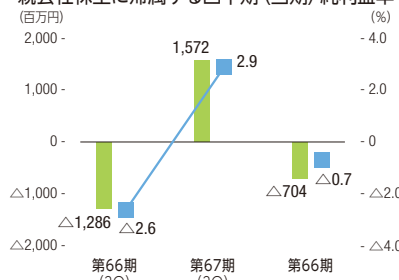
■ 売上高



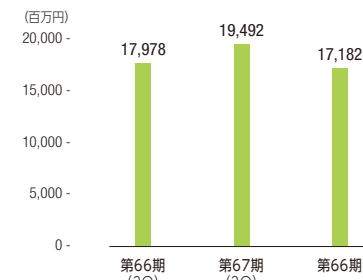
■ 営業利益・営業利益率



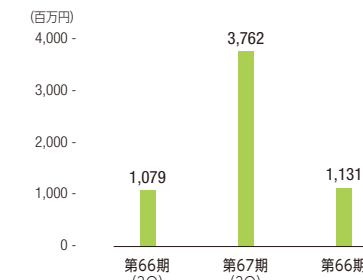
■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益・親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益率



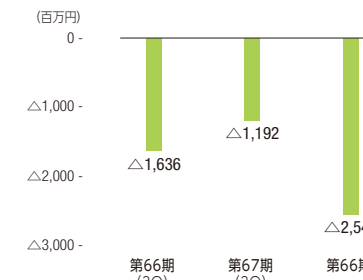
■ 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



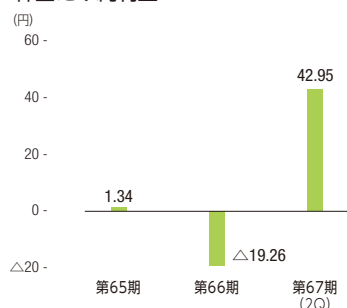
株式関連情報 (2019年9月30日現在)

■ 剰余金の配当について

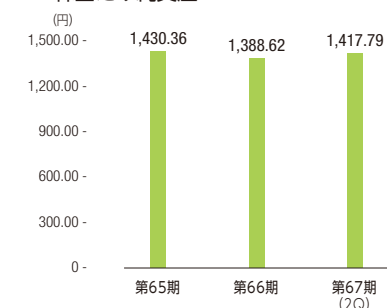
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つとして考えており、配当につきましては、収益の状況および将来の事業展開を勘案し安定的な配当の継続を基本として、決定しております。

以上の方針に基づき、中間配当金は、1株当たり10円とさせていただきます。また、当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり20円を予定しております。

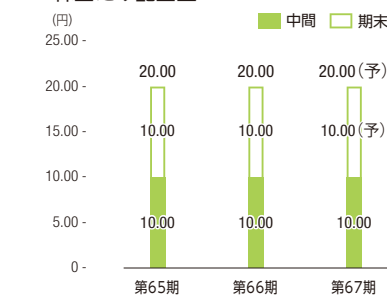
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産

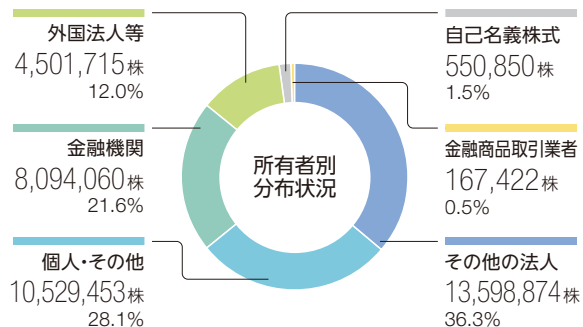


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 37,442,374 株
 株主数 4,182 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	8,609	23.3
クリナップ真栄会	2,056	5.5
株式会社タカヤス	1,829	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,828	4.9
クリナップ共進会	1,783	4.8
クリナップ社員持株会	1,592	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,039	2.8
株式会社三菱UFJ銀行	757	2.0
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	623	1.6

(注) 持株比率は、「株式付与ESOP信託口」が保有する自己株式(290,200株)を除いた自己株式(550,850株)を控除して計算しております。

会社情報 (2019年9月30日現在) / 株主メモ



■ 会社概要

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証二部上場
 1991年9月2日 東証一部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,501名/単体：2,955名
 主な事業所 支社：国内4か所
 支店：国内1か所
 営業所：国内129か所(出張所含む)
 海外：香港、台湾、上海
 工場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島(いずれも福島県いわき市)
 岡山(岡山県勝田郡勝央町)
 津山(岡山県津山市)

■ 役員

代表取締役会長	井上 強一	取締役	川崎 享*
代表取締役社長執行役員	竹内 宏	取締役	千代田有子*
取締役副社長執行役員	小島 輝夫	常勤監査役	山根 康正
取締役専務執行役員	島崎 憲夫	常勤監査役	藤本 真一
取締役専務執行役員	山田 雅二	監査役	新谷 謙一*
取締役専務執行役員	大竹 重雄	監査役	高品 彰*
取締役専務執行役員	川田 和弘		

*は社外

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当金 9月30日
 受領株主確定日
 定時株主総会 毎年6月
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
 電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 電子公告掲載 URL <https://cleanup.jp/>
 単元株式数 100株

【株式に関するお手続きについて】

■ 証券会社等の口座に記録された株式

株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。

■ 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

■ 未受領の配当金

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話:0120-232-711(通話料無料)
 郵送先:〒137-8081
 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部